

| | |
|------------|---|
| Title | 紀要の発刊にあたって |
| Author(s) | 系村, 昌祐 |
| Citation | 沖縄工業高等専門学校紀要 = Bulletin of Okinawa National College of Technology(1): 0-0 |
| Issue Date | 2007-03 |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12001/18632 |
| Rights | 沖縄工業高等専門学校 |

紀要の発刊にあたって

沖縄工業高等専門学校長 糸村昌祐

昭和36（1961）年6月17日に公布施行された「学校教育法の一部を改正する法律」によって新たに制度化され、翌年、全国に19校の国・公・私立の高等専門学校（以下高専と記す）が誕生して以来、すでに半世紀近くが経過している。55番目の国立高専として平成14年10月に法律上開学した沖縄高専では、カリキュラムの検討、講義を担当する教員の全国公募、教員候補者の大学設置・学校法人審議会高等専門学校専門部会による審査等と並行して校舎建設が進んでいる中で、55国立高専の法人化が決定され、平成16年4月、独立行政法人国立高等専門学校機構の発足と同時に第1期生を受け入れる運びとなった。

ここで、大学と高専の設置目的の相違について触れてみたい。学校教育法第52条で「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的、及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と規定されているのに対し、同法第70条の2において「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と規定されている。すなわち「研究」は高専の追求すべき目的としては掲げられず、専ら職業に必要な能力を育成するための技術者教育を行うことが高専の目的使命であるとされた。しかしながら、高等教育機関と位置付けられた高専にあって、教員や学生が研究活動と全く無縁であって良いことはない。すべての高専において、創設後数年を待たずして研究報告や紀要などの定期刊行物が発刊されていることは、高専の教員諸氏が大学に比べて多い授業時間や学生指導、学校管理運営への協力の合間を縫って、教育の内容を日進月歩する学術の進展に対応させ、また、物事を学問的に掘り下げてゆく態度を身をもって学生に示すという高い意識を有していた証左である。

誌名を決定するにあたって、他高専の研究に関する定期刊行物を、平成16年度発行分の全62校について調べた。「紀要」としている高専24校、「研究紀要」としている高専23校、研究報告9校、学術紀要、研究報告書、研究報文、研究集録、研究彙報、レビュー各1校であった。「紀要」とは大学・研究所などで刊行する研究論文を収載した定期刊行物（広辞苑）である。法人化の目的は、各高専の「個性化・活性化・研究教育の高度化の一層の推進」と言われており、学年進行中の沖縄高専を除くほぼ全ての高専に専攻科が設置され、平成18年9月現在で40校の国立高専が日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け認定されている。これらを踏まえ、本校の第2期中期5カ年計画において、本科1期生卒業と同時に専攻科の設置、専攻科1期生修了年の秋にJABEE受審を予定していることと併せて、本校教職員の研究成果等を掲載する定期刊行物の名称として、「紀要」を採用することになった。

平成15年12月に上梓した本校の中期5カ年計画では、平成19年度に紀要第1号を発行する予定であった。平成20年度に学年進行が完了して全5学年の学生が揃い、教員数65名となる予定であるが、この度、計画を1年早めて、約3/4の教員充足率の中で紀要第1号を発刊することができた。関係教職員並びに本号に寄稿された教員諸氏の努力に敬意を表す。